

高等学校1学年総合的な探究の時間（人間と社会）学習指導案（全体計画）

1 単元名 「地域社会を築く」（人間と社会 第13章）

2 単元の目標

- (1) 地域社会は何故あるのかを考える。
- (2) 地域社会で行われている活動にはどのようなものがあるかを考える。
それに関わる人たちについて体験学習をとおして知る。
- (3) グループワークを通し、他者と社会貢献活動の学びを振り返り共有する。

3 単元について

本単元では、地域社会を考えるをテーマに教科書（東京都設定科目「人間と社会」）や地域社会を推進する方の講話を聞き、自分事として地域社会への関わり方を考える。その後、地域社会との関りをもつべく、お祭りへの参加を行い、社会貢献活動を実施する。ここでは、老若男女関わらず多くの方と接する場面が想定できるため、個々で目標等を定め、自分事として取り組むことを、もう一つの目標とする。実施後に、振り返りを行い、体験前と体験後での自身の変容等をみとり、次の活動へつなげるきっかけとする。

4 単元の評価基準

観点	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域社会にはどのようなコミュニティがあるかを知る。 ② 地域社会に関わる人達について知る。 ③ 社会貢献活動の内容について理解し、自ら進んで活動を行うきっかけとする。 ④ 問題解決の手法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域社会で行われている活動について、自身の経験やデジタル端末を活用し調べまとめる。 ② 地域社会に関わる人達について、様々な角度から考えまとめる。 ③ 関わる人達に、疑問に思ったことや自分の考えを伝え、コミュニケーションを図りながら物事を考え、自らが表現する。 ④ 問題解決の手法を生かし、他者の意見を交えながら、解決に向けて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域社会の活動全般について他者と意見交換し、考えを深めようとしている。 ② 社会貢献活動において、世代を超えた交流を積極的に行おうとしている。 ③ グループ活動において、自ら進んで単元活動を主体的に行おうとしている。

5 指導計画（全10時間）

時間	学習活動	注意事項
1 時間目	人間と社会の教科書を進める。 (地域社会に関する教材を用意し進めていく)	
2 時間目	1 時間目の続き ※社会福祉協議会(ボランティアセンター)とのやりとりからこのお祭りへの参加があることを明確に伝える。 (※参加のための事前学習も実施)	社会福祉協議会の役割を簡単に説明できると理想的。 ※事前に社会福祉協議会職員にインタビューしておくが良い。
3 時間目 から 8 時間目	学校のある区市町村で行われるお祭りに学年で参加するお祭り当日に担当者より事前の説明を受け、自ら考えながら行動しお祭りを盛り上げる。 ※ブースごとに人数が割り振られる可能性もあることから、様々なブースで生徒が活躍することが考えられる。	生徒の人数と、教員の引率数を確認する。 緊急連絡を一元化しておく (生徒の保護者緊急連絡も確認しておく)
9 時間目	活動の振り返りを行う。 (Forms 等で提出しリアルタイムで共有) グループごとに、どのような活動を行ったのかを意見交換し学びをまとめる。 自分の住んでいる地域のお祭りにどのようなものがあるか、お祭りに関する伝統文化についても調べる。	可能であれば、お祭りの実行委員の職員等呼び、様子を見に来てもらうと良い。
10 時間目	9 時間目の続き KJ法を活用し、学びを言語化し全体で共有(発表)する ※事前に実行委員会か生徒の活動についてコメントをもらっておき、ここで披露する。	可能であれば、お祭りの実行委員の職員等呼び、様子を見に来てもらい、コメントなどを頂くと良い。

※地域のお祭りに学年全体の人数を参加させたいという思いを達成させるために、社会福祉協議会(ボランティアセンター)に相談をし、実施できた事例である

学校と社会福祉協議会の連携・協働は大切に、常につながりをもっておくが良い

※事前学習2時間目、体験学習6時間、事後学習2時間で展開しているが、事前学習や事後学習は1時間でも実施が可能。また、社会貢献活動については、状況に応じ時間数を設定し実施が考えられる。

【この授業のポイント】

1 地域連携を行う

学校内で外部連携を担う教員（授業の取りまとめ役で管理職でない教員）とお祭り担当（窓口）と半年以上前より対面及びメール等でのやり取りを実施

このお祭りには、1学年全員が参加（一斉体験学習）することで進めている

＜本授業の連携におけるタイムスケジュール＞

3月下旬（春休み中） 学校担当者、お祭り窓口と打ち合わせ

（前年度の総括、今年度の依頼内容、生徒規模の確認）

4月上旬

お祭り窓口よりメールにて、諸注意を含めた資料の共有

お祭り実行委員会の開催日の共有

＜適宜、進捗等を共有＞

7月頃

ボランティア実施会場及び担当ブース、内容、依頼人数の詳細をお祭り担当よりメールにて共有

7月下旬

学校担当者が中身について、電話にて再確認。その際に、注意する点なども併せて確認する

（生徒へアンケートを実施し、振り分ける）

9月上旬

学校担当者が、振り分けた生徒名簿をお祭り担当へ提出（メール、暗号化）お祭り窓口、学校担当者と電話にて詳細等を確認

9月下旬

学校側でお祭りに関する事前指導を実施

10月

本番（ボランティア体験学習）

その後、学校側で振り返りを実施し共有

2 部活動や委員会等の特別活動を上手に活用する

このお祭りでは、学校の広報活動を兼ねてブースの出店も行っている。ブースを担当する生徒は、部活動（社会貢献に関する部）、委員会（広報）の生徒を選出し、学校の特色を発表するまたは、来場者に体験してもらう企画を実施した。ステージ舞台でも部活度と連携し演目を披露した。

- ・委員会の生徒は、科の特色を生かしたクイズを実施
- ・社会貢献に関する部活動の生徒は、立体メッセージカードづくりを実施
- ・ステージでは、ダンス部や吹奏楽部が連携

※予算がある場合には、景品等を用意することでより集客が見込まれる

他の会場の業務内容では、本校の特色を生かせる内容ばかりで、生徒の満足度は高かった

